

農推第1826号
令和8年6月30日

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病害虫発生予察情報について

標記について下記のとおり発表したので送付します。

病害虫発生予察注意報第2号

- 病害虫名 オオタバコガ
- 対象作物 なす科果菜類、うり科果菜類、キャベツ等のあぶらな科野菜、オクラ、スイートコーン、花き類等
- 発生地域 府内全域
- 発生量 多い
- 注意報発令の根拠
 - 6月上旬のフェロモントラップ誘殺頭数が平年に比べて多く推移している地点が多数見られた（表1、図1）。
 - 6月後半における露地なすの巡回調査の結果、一部の地域でオオタバコガの幼虫が見られた。（表2）。
 - 大阪管区気象台の近畿地方1か月予報（6月25日発表）では、向こう1か月の気温は平年より高い確率が50%、降水量が少ない確率が40%となっており、今後も多発傾向が続く可能性が高い。

表1 6月上旬のフェロモントラップ調査におけるオオタバコガの誘殺頭数

地点名	本年 (頭/旬)	平年値 (頭/旬)	平年値 との比較
羽曳野市	43	4	10.8倍
枚方市	47	2	23.5倍
八尾市	55	11	5.0倍
岸和田市	92	18	5.1倍
泉佐野市	21	8	2.6倍

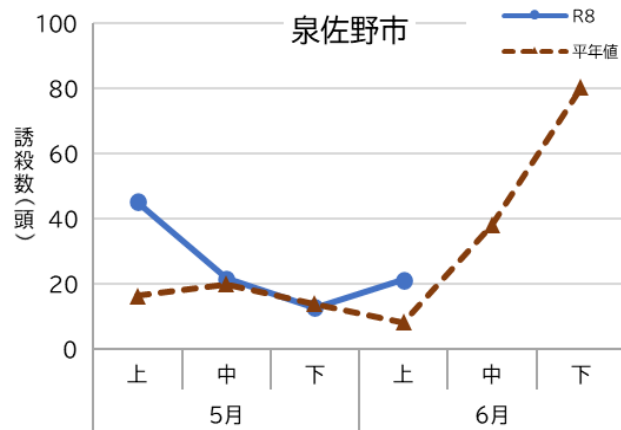
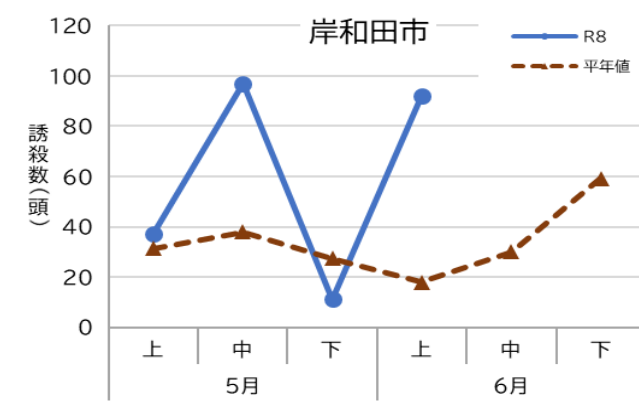
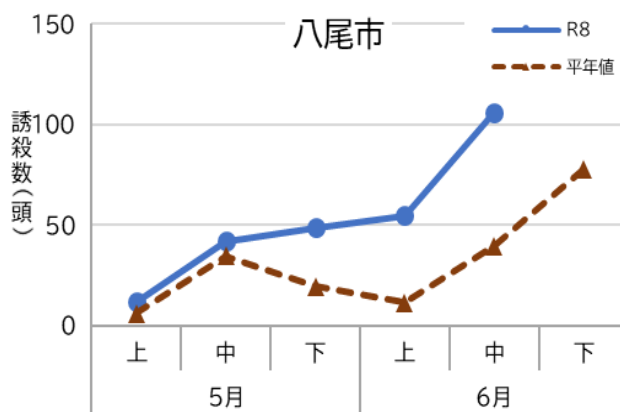
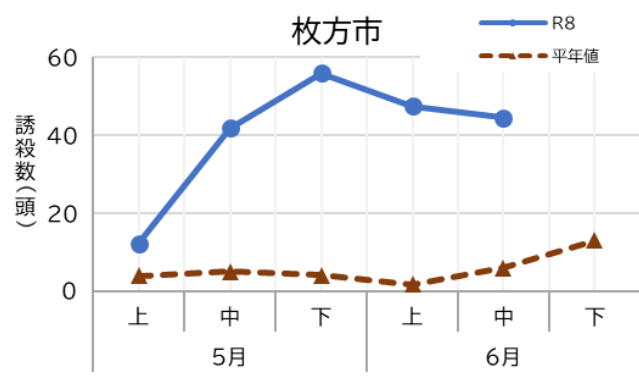
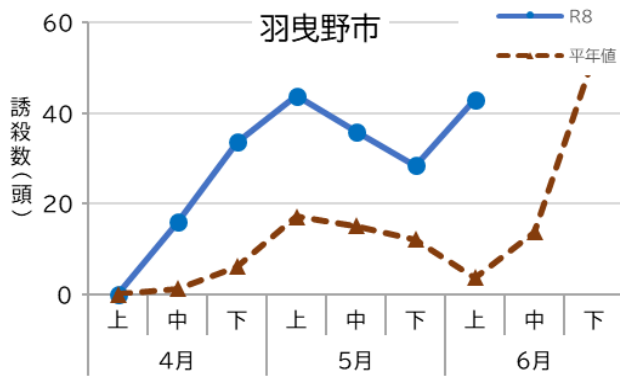


図1 フェロモントラップ調査におけるオオタバコガの誘殺頭数の推移
(羽曳野市、枚方市、八尾市、岸和田市、泉佐野市)

表2 露地なす花たたき調査での発生頭数(20花あたり頭数)

地点	6月後半
河南町1	0頭
河南町2	0頭
貝塚市1	1.3頭
貝塚市2	1.7頭

6 生態

- (1) 卵は直径約 0.4mm、色は淡黄色である(写真1)。新葉の先端やつぼみに1卵ずつ産みつけられ、ヨトウムシ類のように卵塊をつくらない。
- (2) 幼虫は新芽やつぼみ、果実、茎等に穴をあけて食入するのが特徴である(写真2、3)。
- (3) 中老齢幼虫は、寄主作物上を渡り歩きながら食害を続けるため、寄生虫数が少なくても被害が拡大する。
- (4) 老齢幼虫の体長は35~40mm、体色は淡緑色から茶褐色まで変異が大きい。幼虫は5~6齢を経てサナギとなる。
- (5) 成虫の体長は約15~20mm、開長約35~40mm、体色は灰黄褐色である(写真4)。1雌当たりの総産卵数は1000~2000個であり、年4~5回発生する。
- (6) 幼虫は広食性で、多くの野菜類、花き類等を加害する。大阪府内での作物への被害は、6~11月まで続く。特に8~9月の被害が最も多い。



写真1: 卵



写真2: 幼虫



写真3: 水なすの食入痕



写真4: 成虫

7 防除対策

○基本的な防除

- (1) ほ場の見回りをこまめに行い、卵や幼虫の捕殺に努める。また、被害残さや摘除した茎葉や果実には、卵や若齢幼虫が付着していることがあるので、ほ場外に持ち出し処分する。

○侵入・産卵防止

- (1) 施設栽培では、開口部を4mm以下の目合いのネット等で被覆する。
- (2) 露地栽培では、4mm以下の目合いのネット等でべたがけ、トンネルがけを行う。

○薬剤防除

- (1) 幼虫は、果実内部やつぼみに食入するなど、いずれも薬剤が届きにくい場合があるので、被害を確認したら直ちに防除する。
- (2) 老齢幼虫になると薬剤の感受性は大幅に低下するので、若齢幼虫のうちに防除を実施することが望ましい。
- (3) 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
(系統については、防除薬剤例、病害虫防除指針などを参照)

<別添> オオタバコガの防除薬剤例

作物名	薬剤名	系統(IRAC)	希釈倍数	使用時期	使用回数
なす	アニキ乳剤	アベルメクチン (6)	2000 倍	収穫前日まで	3回以内
	プレオフロアブル	ピリダリル(UN)	1000 倍	収穫前日まで	4回以内
	プレバソフロアブル 5	ジアミド(28)	2000 倍	収穫前日まで	2回以内
トマト・ミニ トマト	グレーシア乳剤	イソオキサゾリン (30)	2000 倍	収穫前日まで	2回以内
	プレオフロアブル	ピリダリル(UN)	1000 倍	収穫前日まで	2回以内
	プレバソフロアブル 5	ジアミド(28)	2000 倍	収穫前日まで	3回以内
キャベツ	アニキ乳剤	アベルメクチン (6)	1000～ 2000 倍	収穫3日前まで	3回以内
	プレオフロアブル	ピリダリル(UN)	1000 倍	収穫7日前まで	2回以内
	ブロフレア SC	イソオキサゾリン (30)	2000～ 4000 倍	収穫前日まで	3回以内
未成熟と うもろこし	デルフィン顆粒水和剤 (とうもろこし)	BT(11A)	1000 倍	発生初期 (収穫前日まで)	—
	フェニックス顆粒水和剤 (とうもろこし)	ジアミド(28)	2000～ 4000 倍	収穫前日まで	2回以内
	プレオフロアブル	ピリダリル(UN)	1000 倍	収穫前日まで	2回以内
きく	プレオフロアブル (花き類・観葉植物)	ピリダリル(UN)	1000 倍	発生初期	4回以内
	ブロフレア SC	イソオキサゾリン (30)	2000～ 4000 倍	発生初期	3回以内

- ・登録は令和8年6月24日現在
- ・最新情報は農林水産省「農薬登録情報提供システム」で確認してください。
<https://pesticide.maff.go.jp/>
- ・これら以外の剤については、Web版大阪府病害虫防除指針も参照してください。
https://www.pref.osaka.lg.jp/0120090/nosei/byogaicyu/boujo_shishin.html
- ・各害虫のフェロモントラップ調査結果は以下のリンクから確認できます。
https://www.pref.osaka.lg.jp/0120090/nosei/byogaicyu/trap_tyousa/r7/r8trap_tyosa.html